

卷八十五百二千二第

時事新報

道路の風説を聞くよ新任遞信大臣從三位後藤伯は近々
従二位より昇敍せらるべしと云ふ抑も位記の上下は何を
標榜とするものなるや顧ふに今各省大臣は何れも從
二位なれば國務大臣たる者の身分は正に從二位より相當
するものあらんか夫れにて我輩は別に異論もあけれど
も各大臣は從二位の外より打補ふて勳一等あるに伯のみ
獨りあれ無ければ或は其位記を進めらるゝと共に同じ
く勳一等を賜はるみどもあらんか若しも左るみどあら
ば我輩は少しく怪ひ所あき詫はざるあり元來勳と云へ
る文字は字書より何ある意義を掲ぐるやは知らされど
も尋常の心を以て普通の意味を解釋するときは勳とは
曾て仕述べたる功績の謂にして即ち過去の手柄と云ふ
ものゝ如し左れば軍人が戰場に臨み何等かの功績を奏
して國より忠義を盡すときは歸來賞せられて相應の勳等
に勳等の沙汰は稀あるが如し例へば今之我國の將士中
にて小勳章を帶ぶるものゝ多きは則ち明治十年西南の
變亂より當り征討の軍に從ふて功を奏せしが故にして此
役あかりせば有勳の者も亦定めて少きみどならん皆
是れ過去の手柄の顯はれて勳と稱するに至るの實を知
る足るべし右の解釋にして誤らずとすれば文官どて
も亦武官ど同様既に國家より功勞あるものなればみど之
に酬ゆる勳を以てするみどあれども唯その席を占め
其位より居るのみにては如何ある高位高官よりも亦其人
物は俊秀卓越のものよても直ちに賜勳の恩典を與むる
ふとは決して相叶ふ可からず如何となれば將來を豫想
して未必の勳功を定むるは理に於て擅着す可ければあ
り然らば今ふの詮旨に從て新任後藤伯の勳功如何を評
せんか伯の官は遞信大臣にして其人物どても他の大臣
位に出陣したる後藤伯としては勳章を授くるの理由な
きと明白なれども然りと雖も前に云へる如く勳とは過
去の手柄あるが故に伯の身よりは即ち王政維新前後の大
勳ありと言はんゝ甚だ穩當ある言にして此舊勳の點よ
り觀察すれば伯は決して他の各大臣に譲るものに非ず
して事う優ると數等なれば勳一等の上に出でゝ差支な
きやに思はるゝ程なれども唯奈何せん維新の勳功を今
日に表彰するは餘程時節に後れたる次第にして且又獨
り後藤伯のみあらず當時の元勳中より其身の大臣より任せ
られずして隨て勳章を帶びざる人物も少なからず而して
其ふれを帶びざるは漫然忘れられたるに非ずして必ず
テ理由の存するみどならんなれば其邊の事情を見れば
維新の運動は追へ可らざるものゝ如し既に新勳の舉る
べき邊もあく又維新に遡りて舊勳を追へ可らずとす
るときは伯が今日に於て勳一等の榮を得るは詭譎みて
あらん若しも然らずして容易に之を授くるともあらん
ふは其舊勳に就ては別に一種の理由あかる可らず唯我
輩に於て之を知らざるのみ

卷之三

ふものあれば同一の方針を取りて同一の事業に當り同一の才能を以て進退と共にしたる者は格別あれども然らざる以上は人より其功績の大小多寡を殊にすべきは蓋し人事の當然あるが如し然るゝ明治政府の大臣參議は必ずしも初めより其境遇を同うせざれば隨て功勞にも差違あるべき様に思はるれども實際に於ては其人々が内閣に入れば皆打揃ふて勲一等を戴かざるはなし我輩は其勳功の能くも斯くまでに平均したるを怪むものにして或は是も位記と同様大臣參議の身分に随伴するものには非ずやの疑なき能はず何分にも勲の字の本義に照らして自から釋然たるを得ざるが故に今度後藤伯の授勳如何を見て以て庶幾くは年來の懸念を解かんと欲する者あり

兵力の必要なる所以を辨じて今日の急務は實業を盛んにし富國の基礎を開くにありと說きて遂に内閣は政黨以外立つ續りなれども内閣員は各々其の政友を求めて同志者相救援するの必要なき非ず（此の時側より政黨なれば見據が付かず政友なれば然らずと云ふ理由如何と問ひしに伯は）政友なれば見據が付くと云ふ譯に非ず左れども前より述ぶる如く我國の政黨は今日尙ほ幼稚として萬事並進するに非ざれば好結果を得るの望みなきが故に暫く同志を集めて市町村の基礎を固め権利を保全し進んで能く爲し得るの時機に達せば其時より政黨内閣を組織して可あらんかと答へて局をจบたり。

○加奈陀線
会を開く等
するふとに
路を合して
トライヤを
地へ擴張せ
輔助を與へ
併して新會
○燐寸業
し如く近々
しゆうじゆの
輸出入の實
助、岡田

（月讀稿）上に關する事の如きは、英國の政黨の事である。英國の政黨の事も亦然り我國の政黨は如何なる必要如何ある事情より迫られて起りたるや余は今の改進黨が以て眞正ある政黨たるの勧を爲し得るものと思はず彼の英國政黨の起原を見よ同國も百年前迄は貴族の權力獨り強盛として愛蘭の如きは恰も貴族の遊獵場の如き有様みて同地に多くの鹿兎を飼ひ置き若し之を殺したる者は人を殺すの罪に處せられたりと云ふとさへあり此の如く貴族は擅恣の行ひあるより人民より亦權力を得んなどを望むに至れり固より一個人としては富人が貧人を使ふも自己の利益を計りて可成貰得を安くせんと欲し労力者は少しにても多くの貨銀を得んと望むは人情として殊に英國の如く土地狹く人口多き所にては小數の富者が土地を専有し居ると故守に傾き貧者は改進の主義を執るに至りたるものにして英國の政黨は詰る所貧富の争ひに起因したるふと多きより勢ひ之を避けんとするより至りて富者は保守に傾き貧者は改進の主義を執るに至りたるものにて又佛國は英國とは異にして歴史上より政黨を異にせりボルボン王室倒れて爰ヌボルボン黨起りナポレオン帝位を失ひて爰ヌボルボン黨起り王政より反對しては共和黨と成り獨逸に怨を報ひんと欲しては社會黨顛れたり左れば佛國の政黨は歴史上より起り其中來する所遠ければ從つて其基礎も亦強固なり米國に於てもレバブリカン、デセクラクトの二政黨を生じたるは各自利害の隨伴する所ありて然るなり然るゝ我國よては政黨の主義と云へば三四箇條の定まりを一句ありて例へば外國との交渉を薄くすると云ふが如き是れなり英國にてグラッドストン氏が率ゐる改進黨の綱領とは決して斯る窮屈ある定めなし元來英國は多く領地を海外に有し印度の如きは非常の艱苦であるが如く保守黨と送り置くふと必要となり富者にて組織せし守黨にては外國の交渉事件を避けんとするも利益を爲ひよ避く可からざる情實あれども改進黨は其の利害保守黨の如く甚しからざるが故よ自から外交政策比し其度數は少なきも實際外國の交渉事件を遇くと云は治済なりといへども尚ほグラッドストン氏の如きは當て内閣を組織せし時よりクリミヤの役ありアフリカ又遠征軍を送りたるとあるが如く保守黨可からざるとわらんグラッドストン氏量よ此の如きは少さんやと論じ夫より我が政黨の幼稚なる點に入り英露支那朝鮮のとよ及び局外中立をめぐる

○淺野長勲侯　は來る二十日頃發途して舊領廣島縣に赴き士族授產業の事に付計畫する所ある由なり

○大坂薬劑師會の設立　在大坂の藥學士中の有志小磯吉人、河原幸吉、石津作太郎等の諸氏發起とあり今度大坂薬劑師會あるものを設けたるよしなるが右は政府よりても漸次醫藥の分業より歩を進めんとして已に去る三月十五日勅令を以て藥品より調する規則を設し薬劑師、薬鋪、藥商等の業務より規定を設けたる今日大坂藥鋪社會一般の有様至極幼稚にして業務振はざるものあれば毎月同業有志相會して藥學研究并に實業上の談話をして定式總會は毎年三月十五日即ち藥品に關する勅令發布の當日を常日とし此程已より役員の選舉とも済しかりと云ふ

○電氣船製造　豫て工兵會議に於て改良を加へし野戰電信船一隻は此程已に竣工したるを以て不日其試験をなす筈なりと

○野戰電信機械　今度工兵會議に於て改良を加へし野戰電信機械は此程の實地試験に於て好結果を得たるに付き猶數十個の機械を製造中ありと

○横濱郵便電信局　前號より記載せし如く同郵便電信局は一昨日新廳舍に移轉したりと

○常議員會　陸軍偕行社の常議員委員等陸軍將校二士餘名には來る十八日午前より偕行社に會して常議員會を開き午後より向嶋福田樓に於て觀櫻の宴を催ほす了は本葬と假葬とを問はず其都度横濱迄持行き埋葬する手筈なりしも近來各外國人の我國に渡來するもの多くと共に府下に在留する外人も益々増加の勢あれば從の儀にては今後不便少あるらざるべしとて今度更に青山若くは谷中の共同葬地中へ一つの外國人埋葬地を設置せんとして目下其筋の評議中なりと

○伊達氏の觀櫻會　華族伊達宗陳氏は今十三日同族十名を向嶋ある植半樓に招待して觀櫻の宴を開くよし

○神奈川縣同好會　同會は來る十六日午後より同縣工鎌倉郡山ノ内村圓覺寺より春季大會を開くよし故ある華族諸氏の懇親會を催はせしが尙ほ其會交を起となり昨年中既に舊三家、三卿、諸代等の鶴川家に来る二十一日午後一時より華族會館に於て第二回の二